

1. 活動報告（事務局 記）

—4月4日（日）二俣瀬ふれあいセンターにて、令和3年度の総会が開催されました。参加された会員は、21名でした。令和2年度の活動報告・会計報告などがあり、了承されました。役員などの変更もありません。令和3年度の活動計画なども了承されました。問題提起は、水車の維持（通水・故障対応など）、田んぼ（管理・今後の稲作など）、市の助成金（今年度の扱いなど）などですが、今後の作業日に協議します。

—4月7日（水）臨時活動として、会員4名と市民センターの岡崎さんが参加し、草原に置かれていた伐採竹の焼却、竹林内の伐採竹を搬出などの作業を行いました。

—4月17日（土）親子自然観察隊は、結隊式と野草観察を行いました。結隊式では、挨拶や注意事項などの説明をして、竹林でタケノコ掘りを行い、家族分は掘ってもらいました。小雨の中ですが、野草採取もしてもらい、来賓の村田講師から野草の名前を教えてくださいました。参加者は、観察隊19名（親7名、子12名）と村田講師、会員15名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

- 5月2日（日）維持活動（草刈り、エコアップ、修復作業）
- 5月15日（土）親子自然観察隊（野鳥観察）外部講師招聘
- 5月23日（日）維持活動（草刈り、エコアップ）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 【 留 鳥 】 （原田 満州夫 記）

4月朝早く水路の落葉拾いにビオトープを覗く。最近とみに春の落葉が多く水車水路のつまりを解除する為車で毎朝入ってくる。

今日も、カルガモが2羽大サギと一緒に休耕する田んぼの水面に泳いでいる。2羽は恐らく夫婦鴨であろう常に寄り添って入ってきた軽トラの方を気にして眺めている、葉っぱの取り除きが終え、車がビオトープから離れるとそっと又蓮田の方に移動する。

この冬季にシベリア方面から渡ってきたカモであろうか？日本生きて夫婦の一方が猟の的になり飛べなくなったものか？いつも2羽一緒に泳いでいる。

其のままビオトープに残ってカモ産卵しカモの雛を育ててくれたら喜ばしいことである。

▼落ちカモの 残されし二羽 ビオトープ▼

※落ち鴨・・・春になって日本を離れシベリア方面に帰る渡り鴨のこと（春の季語）

5. 親子自然観察隊（結隊式・野草観察）（菅 哲郎 記）

結隊式：結隊式は現地に集合し、受付、資料の配布、隊員家族の撮影を行いました。10家族19名の出席があり、雨天の中「結隊式」を行いました。

原田会長の挨拶より始まり、関根事務局長、管隊長の挨拶の後、役員の紹介と原谷会員よりフィールド内における注意事項等を説明していただきました。なお、常盤動物園より講師を派遣していただきましたので、講師の紹介させていただきました。

野草の採集：講師の村田氏より「春の七草」の説明を受けました。皆さんの知らない知識も披露され、大変勉強になったようです。そのあと早速全員で竹林に移動し、タケノコ堀を行いました。皆さんの努力の結果、10本以上のタケノコが見つかり、みんなで楽しみながら掘り取りました。掘り取る経験ができ、まずまずの成果を上げました。タケノコは大ぶりなものもありましたが、掘って楽しむには十分でした。

名前調べ：タケノコ堀りのあと講師の村田氏より採集された草花の名前調べ（同定）を行いました。今回は試食会がなかったので、じっくりと植物の名前の同定が行われました。年少の子供たちには少し退屈だったかもしれませんが、上級生たちは熱心に聞き入っており、勉強になったようです。

春の七草：セリ・ナズナ（ペンペン草）・ゴギョウ（ハハコグサ）・ハコベ・ホトケノザ

採集された野草：ヨモギ・スカンポ（スイバ）・セリ・ノビル・アザミ・ハコベ・フキ・カラスノエンドウ・スズメノエンドウ・カスマグサ・ウラジロチチコグサ・ツブキアザミ・スズメノテッポウ・スズメノヤリ・スズメノカタビラ・ミツバツチグリ・レンゲ・カキドオシ・タンポポ・ムラサキサギゴケ・ナズナ（ペンペン草）・タチイヌノフグリ・ウマノアシガタ・カヤツリグサの仲間・オヘビイチゴ・タケノコ・ヒメオドリコソウ・シオンの仲間・シロツメクサ・



タケノコ掘り取り



村田講師による山野草の説明

親子自然観察隊の感想

★福永（母）

17日はお世話になりました。タケノコ掘りは2回目になりますが、今回も掘るのは難しく、大変でしたが、スタッフの方の手を借りて採ることが出来て喜んでました。野草の観察も丁寧な説明して下さい、とても勉強になりました。ありがとうございました。

★秋田理莉

でっかいたけのこが掘れてよかったです。たけのご飯にして食べました。シャキシャキして美味しかったです。

★秋田菜那

たけのこ掘りが楽しかったです(!)またやりたいです。

★溝邊義人

たけのこ掘りは難しかったけど楽しかったです。みんな大人の方は上手に掘るのですごいなと思いました。

★溝邊睦

たのしかったです！

★溝邊 (母)

今年は活動が多くないので、予定が合えば維持活動を手伝いにいきたいと思います！よろしくお願いいたします。

★新谷ともき

今日は雨がふっていたけど、タケノコ掘りが楽しかったです

★新谷和矢

タケノコ掘りが楽しかった。小さいタケノコを見つけれて嬉しかった。

★新谷 (母)

普段あまりじっくりみることのない野草について知れてよかったです。スズメの槍など、スズメの名前がついた野草がかわいいなと思いました

★矢野 (母)

本日はありがとうございました。とても楽しかったです。今日はタケノコ三昧です。

初めてノビルも食べてみます

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(62) イボバッタ *Trilophidia japonica* バッタ科

平地から山地に生息し、7月～11月ごろに現れます。その名の通り、顔や体にはイボのような凸凹があり、灰色で黒褐色のまだら模様があります。トノサマバッタに比べ大きさは半分くらいで小さく、泥や小石に似ており大変見つけにくいので、一種の擬態であると思われます。探せばどこにでもいるはずですが、小さいうえにこんな姿なので、なかなか眼にかかりません。日当たりのよい石や岩、コンクリートの上など、草むらの中よりもむしろ荒地や裸地でよく見わかりますが、小石混じりの土の上では動かないとなかなか見わかりません。人が近づくと驚いて飛んだり跳ねたりします、その時が見つけるときのねらい目です、一度見つけてみてください。思ったより小さなバッタです。



イボバッタ・江汐公園



イボバッタ・小野田、本山岬公園

参考文献

槐 真史ほか、2017. ポケット図鑑日本の昆虫 1400

① チョウ・バッタ・セミ、319pp, (株) 文一総合出版、東京
福田晴夫ほか、2005. 昆虫図鑑 採集と標本の作り方、236pp, (株) 南方社、鹿児島

7. 会よりの連絡事項

- 1) ビオトープそばの竹林は整備され、ビオトープとしての景観も非常に良くなりました。
今後竹林の整備をどう進めていけば良いかの意見を募集します。今後の作業で話し合いを行いたいと思います。

8. 編集後記 (原谷 一誠 記)

昨年度は新型コロナの影響により維持活動も控えめな行動に抑えて行いましたが、田植え・稲刈り・20周年記念イベント(里山の暮らし)などの行事を無事に終えたことは良かったという感想です。さて今年はどうなのでしょう。新型コロナの影響も継続され、田んぼの稲作もなく、淡々と維持活動のみでは寂しい思いがあります。一日でも早い新型コロナの終息を願い、いつも通りの活動が出来るようになることを願っています。